

特別支援教育学習指導案

指導者 T1 西 勉 T2 井上美由紀
T3 野口 慶子 T4 向井 紋子

日時 平成29年11月18(土)第2校時 (11:05~11:55)
年組 東雲中学校 全学年3組 12名 (1学年4名, 2学年4名, 3学年4名)
東雲小学校 全学年養護学級 12名
場所 中学校 第1年3組教室 第2年3組教室 第2年3組教室 マルチルーム
単元 体験説明会「力を合わせて」

単元について

本校特別支援学級は、障害の程度が中・軽度の知的障害を有する生徒を対象とした学級である。各学年に特別支援学級は1学級あり、全学年合計12名の生徒が在籍している。生徒は広島市内や周辺の地域から徒歩あるいはバス、鉄道等の公共交通機関を利用して一人で通学している。特別支援学級では集団での学習活動を軸にしており、学年別の授業の他、全学年による授業や個の実態に応じ学年の枠を超えたグループによる授業を行っている。学習面だけでなく、委員会やクラブ活動、行事等、学校生活全般において、学級や学年の枠を超えた関わりが多いのが特徴の一つと言える。個々の生徒の実態としては、意欲的に課題に取り組み、考えて行動しようとする生徒、意欲はあるが自分の意見を表現することが苦手な生徒、聞かれたことに適切に返答することが難しい生徒など様々である。また、現在は約半数の生徒が東雲小学校の卒業生であり、小学校との合同で行う活動は、一学期は、顔合わせ会・進路を語る会、二学期、小中合同運動会・〇〇説明会、三学期は、合同発表会などが多い。二学期に行っている小学生との説明会も形を変えながら3年目となる。このような取り組みの中で中学生が小学生を意識して中学校の活動や生活について伝えていこうとする気持ちが育ってきていると感じている。

本単元では、中学校での日々の活動を振り返り学んだことや体験したことを他者に伝える視点を持ち説明会にむけて取り組む活動である。自分たちが日々学習してきたことをわかりやすく小学生に伝えていくために、必要な手段や手順を考え検討していく。そして説明会での役割を分担していくことで、その役割を意識させ意欲的に取り組むことができる。また他者に説明を行うことは、内容について十分理解する必要がある。このためこれまでの学習を生徒自身が振り返り整理することにつながるため、学習への理解をより深めることができると考えた。

指導にあたっては、中学校のことを小学生に伝える活動に向けた取り組みを通して、小学生にとってどの活動が身近で興味のある活動になるのかを考えられるようにさせた。昨年度は小学校高学年を中心に中学校の「しごと」(本校の作業学習)の時間の活動について、3グループに別れて体験会を開催した。今回は低学年も含め、小学校特別支援学級全員に向けて体験説明会を行うため、小学一年生から6年にも分かりやすくするためには、どんな方法がいいのかを主体的に考えさせた。体験活動を計画するにあたり生徒一人ひとりが意欲を持ち取り組んでいくために、体験の内容やルールを各学年で発案することにし、内容もゲームのように楽しみながら体験的に行える活動を計画することにした。決まった内容は特別支援学級全体で取りあげ、各学年の進捗状況を把握できるようにした。各学年で考え体験活動を自分たちが実際に行うことで課題を見つけ修正していくようにした。また小学生とともに活動する場面も、増やすことで、よりお互いを理解しあい取り組むことができるようにした。本時は体験活動の説明を行い、やり方やコツを伝え、小学生の思いを聞き出し、小学生のやりたい活動を決定できるようにするこ

とである。中学生は、小学生の様子を知り、関わる（教える、アドバイスする）ことで、自己や他者を意識して取り組むことになり、小学生を含めたチームの活動を通して、主体性、多様性、協働性を育むことにつながると考えた。具体的には、中学生が職場体験学習で行う活動、校内整備、清掃、図書の活動を体験できるように学年ごとにわかれて計画しているが、小学生と合同のチームを編成した時には、縦割りの学習集団とすることで各学年の生徒が分散するようにして、一人ひとりが各チーム内の説明担当として、役割や相手を意識して取り組めるようにした。

指導目標

- (1)小学生との体験活動を行うことを通して、自分の役割と責任を意識し遂行する力を育てる。
- (2)小学生と合同で活動をするについて考え、相手の立場になり行うべきことを判断し行動できる力を育てる。
- (3)生徒たちがコミュニケーションをとりながら、主体的な活動を重視した指導を行う。

指導計画（全8時間）

	時数	学習内容	学習活動 ○学び方の工夫
第一次	1	体験説明会の実施について	東雲中学校の授業の楽しさや真剣に取り組む姿勢を東雲小学校の児童に伝えるにはどうしたら良いか考える。 ○昨年の学習を振り返り、相手の知りたいことを想像し考える。 ○小学生に知りたいことや体験したいことをアンケートする。
第二次	5	体験説明会の計画と準備	中学校の楽しさやがんばっていることを振り返り、小学生にわかりやすく伝える方法を考えていき、体験説明会に向けて準備を進めていく。 ○伝えたいことをきちんと伝えるために、気をつけることをチェックポイントとしてまとめる。 ○小学生の立場になり考える場面を作り、チーム・全体で意見を交流する。
		事前説明（本時）	模擬体験を行い小学生に活動の内容説明やポイントを伝える。模擬体験をする。 ○各チームでどの体験活動に誰が出るか、得意不得意などを考慮して取り組む。
第三次	1	中学校体験説明会	小学生たちが、楽しく活動できるように、自分の役割や担当を意識して体験説明会を実施する。 ○他者評価・自己評価を行う。 ○小学生に感想を聞き記録しておく。
第四次	1	振り返り	体験説明会を振り返り、うまく出来たことや、もっと工夫できるポイントを考える。 ○活動を映像で視聴し振り返りを行う。 ○自己評価と他者評価を取り入れる。

本時の目標

- (1)自分の役割と責任を果たし、意欲的に取り組むことができる。
- (2)小学生やまわりの状況を意識して行動できる。

学びを豊かにするための手立て

説明する相手を、身近であり後輩にあたる小学生とすることで対象を限定した。これにより相手にどうすれば中学校での活動について伝えることができるのかをイメージしやすくなり、話し合いの中で多くの意見出すことができる。また体験内容の準備は学年ごとに行い、体験会のチームは縦割りの活動とすることで、各学年の説明担当者が責任を持って取り組めるようにした。活動場面においては、小学生との意見のやり取りを行うことで生徒が自ら考える場面となり、主体的な学びになるようにした。

本時に関わる、生徒の実態と個別の目標、支援 (一部)

	学 年	生 徒	本時に関わる実態	個別の目標	目標達成のための 支援
情報・	3	L	緊張や恥ずかしさから指示に対して反応できないこともあるが、リーダーとして、責任感を持って行動できている。グループ内では意見をまとめ考えることができる。	仲間や小学生の状況を判断し、適切な対応をすることができる。	小学生の状況などを意識するように言葉掛けをする。
	1	D	話し合いなどの場面では、十分内容が理解できないため苦手である。目標を意識しさせる言葉掛けをおこなうことで、内容理解や活動することができる。	自分の担当を理解し、活動の中で、小学生を意識した行動ができる。	活動に入れないときは、意欲的に活動に参加できるように促す。
クラ フト	3	J	意見を積極的に出すことができる。話し合いでは、たくさん意見が出てまとまらないことがあってもリーダーとしての仕事を意識して取り組めた。	小学生の状況を判断し、適切な対応をすることができる。	小学生の状況などを意識するように言葉掛けをする。
	2	H	話し合いの場面では、自分の意見を伝えることはできるが、意見が通らないとパニックになることがある。しかし気持ちを切り替える事ができ始めており短時間で落ち着き活動に取り組んでいる。	自分の役割を理解し、正しい手法や適切な言葉で話し、協力して活動ができる。	事前に活動内容を伝えて理解させる。色々なパターンを想定させておく。
食 品	3	I	思い込みで作業することや思ったことをすべて言葉にしてしまう。しかし作業など活動に対しては、飲み込みも早く意欲的に取り組むことができ後輩のサポートを積極的に行うことができる。	相手を意識して、わかりやすい言葉で、はっきりと説明することができる。	内容をメモしておく。困った時や思い込みで進んでしむ時は、メモを見るように促す。
	2	E	話し合いの場面では、内容理解が難しいため苦手である。行動はゆっくりだが、活動に取り組もうとする意欲はあり、自分からやりたい活動を伝えることができる。	小学生にお手本を見せ、内容を伝えることができる。	事前に体験活動のポイントについてメモしておく。

縦割り集団の構成

- ・チームⅠ・・・情報・サービス 4人 (B, D, G, L) +小学生縦割り 4人
- ・チームⅡ・・・食品加工 4人 (A, E, H, J) +小学生縦割り 4人
- ・チームⅢ・・・クラフト 4人 (C, F, I, K) +小学生縦割り 4人

学習の展開

	学習活動 (□) と評価 (◆)	指導上の留意点 (・) と支援 (■)
導入 (5分)	<p>本時の学習について確認する。</p> <p>□活動内容</p> <p>①体験会 ②チームの活動 ③ふりかえり</p> <p>□本時の学習目標を確認する。 「体験活動を試し、チームで作戦を立てる。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム分けを予め表示しておく。 ・小学生に体験してもらう。 ・チームに別れて各ブースをローテーションする。
展開 (20分)	<p>□体験活動の紹介。(各チーム5分)</p> <p>体験活動を各説明担当者がルールについて手本を見せながら、説明する。体験活動の評価ポイントを伝える。</p> <p>体験内容 例 (職場体験) 内容は変更あり</p> <p>1年 校内実習 --- 1年3組 教室</p> <p>2年 清 掃 --- 2年3組 教室</p> <p>3年 図 書 --- 3年3組 教室</p> <p>◆小学生に意欲的に内容を伝えようとすることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の担当を確認する。 ・事前指導で体験のポイントを、理解させておく。 ■進捗具合を意識させる言葉かけをする。 ■小学生の様子を意識させるような言葉かけをする。
展開2 (20分)	<p>□チームに分かれて作戦会議をする。出場者を決める。どの体験活動に参加するのか発表する。</p> <p>◆小学生の思いを聞き入れ、小学生の体験活動を決定できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を集約しやすくするためのワークシート ■小学生の良かったポイントに気づかせる。
まとめ (5分)	<p>□次時の学習内容の確認</p> <p>中学生は、それぞれのチームの選手を発表して意欲を高める。小学生は意気込みの発表を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次回に使用するため、振り返りをビデオで記録しておく

準備物

ワークシート, タイマー, チェック表, 各学年体験活動 準備物, 記録用タブレット

児童・生徒の動き

教室	2-3 教室	3-3 教室	1-3 教室	マルチルーム
	2年体験活動	3年体験活動	1年体験活動	導入・まとめ
移動	① チームⅢ	① チームⅡ	① チームⅠ	全体集合
	② チームⅠ	② チームⅢ	② チームⅡ	
	③ チームⅡ	③ チームⅠ	③ チームⅢ	

